

平成24年2月27日

北海道開発局

**パブリックコメント等を踏まえた
利水対策案(新規利水)の概略検討(案)について
(沙流川流域)**

前回までの概略検討結果 (新規利水:日高町水道、平取町水道)

No.	対策案	完成までに要する費用(概算)	地域社会への影響、実現性など
0	平取ダム	約0.7億円	・ 民有地の買収及び家屋移転が完了している
1	河道外貯留施設	約8億円	・ 民有地の買収及び家屋移転が完了している ・ 導水施設建設等のための地質調査が必要となる
4	ダム再開発(掘削) 二風谷ダム	約5億円	・ 必要な開発量を維持していくために、掘削が必要となる ・ 工事期間中における洪水調節、安定的な利水補給に配慮する必要がある ・ 関係者との調整が必要となる
5	ダム再開発(掘削) 岩知志ダム	不確定	・ 必要な開発量を維持していくために、掘削が必要となる ・ 工事期間中におけるダムの運用に配慮する必要がある ・ 関係者や施設管理者との調整が必要となる
6	他用途ダム容量の買い上げ	不確定	・ 発電容量の一部を買い上げるため、発電への影響を検討する必要がある ・ 工事期間中におけるダムの運用に配慮する必要がある ・ 関係者や施設管理者との調整が必要となる
7	水系間導水	不確定	・ 鶴川からの導水増加や新冠川への導水減少による発電への影響を検討する必要がある ・ 鶴川への影響について検討する必要がある ・ 関係者や施設管理者との調整が必要となる
8	地下水取水	約4億円	・ 井戸や導水施設等の設置に伴い、用地買収が必要となる ・ 既存井戸や地盤沈下等の影響について検討が必要となる。 ・ 伏流水や河川水への影響のほか、地質や水質についても調査が必要となる
9	ため池	約7億円	・ ため池の設置に伴い、用地買収が必要となる ・ 地質や環境等の調査が必要となる ・ 雨水あるいは地区内の流水により必要な開発量を確保することが可能か調査が必要となる
11	既得水利の合理化・転用	不確定	・ 水利権更新毎に用途別の必要流量については、適切に審査されている ・ かんがい用水については、これまでも老朽化等への対策が図られている ・ 関係者との調整が必要となる

【関係者（利水参画者等）】

○新規利水対策案No. 5（ダム再開発（掘削）岩知志ダム）、No. 6（他用途ダム容量の買い上げ）、No. 7（水系間導水）

・利水参画者等（利水参画者、関係河川使用者（利水対策案を構成する施設の管理者や関係者））に、第3回検討の場の概略検討において抽出した新規利水対策案について意見聴取を行った。

⇒ 新規利水の対策案抽出にあたり、No5、6、7の案を構成する各施設管理者に当該案に対する見解について意見を聴いたところ、各施設管理者の利水計画に支障を与えることから同意できないとの回答があり、他案と比較して実現性が低いことが明らかとなったことから、概略検討において棄却する。

【関係者（関係する事業者）】

○新規利水対策案No. 11（既得水利の合理化・転用）

・関係する事業者に既得水利の合理化・転用にかかる事業予定等の見通しを聞いた。

⇒ 現時点ではこれらの見込みはなかったため、概略検討において棄却する。

【構成員、パブリックコメント】

○第3回検討の場の概略検討で棄却した新規利水対策案へのご意見

・検討の場でのご意見 : 支持するご意見はなし

・パブリックコメントでのご意見 : 支持するご意見はなし

⇒ 第3回検討の場の概略検討で棄却した新規利水対策案は、評価軸ごとの評価を行う対策案としない。

○新たな新規利水対策案の提案（パブリックコメント）

・パブリックコメントでの提案 : 提案なし

概略検討による新規利水対策案の抽出の整理

No.	対策案	概略検討による抽出		
		完成までに要する費用（概算）	抽出	不適当と考えられる評価軸とその理由
0	平取ダム	約0.7億円		
1	河道外貯留施設	約8億円	○	
4	ダム再開発（掘削）二風谷ダム	約5億円	○	
5	ダム再開発（掘削）岩知志ダム	不確定		・実現性 ・岩知志ダムの施設管理者から、「長期間に及ぶ継続的な掘削工事となることが予想される。掘削工事期間中は、岩知志発電所長期停止による発電量の損失により貴重な水力エネルギーを失うものであり、本対策案に対しては同意できない」との回答があった。
6	他用途ダム容量の買い上げ	不確定		・実現性 ・岩知志ダムの施設管理者から、「電力の安定供給に大きな影響を与える可能性がある本対策案に対しては同意できない」との回答があった。
7	水系間導水	不確定		・実現性 ・水系間導水施設（奥新冠発電所等）の管理者から、「当社の発電事業に大きな影響を与える可能性がある本対策案に対しては同意できない」との回答があった。
8	地下水取水	約4億円	○	
9	ため池	約7億円	○	
11	既得水利の合理化・転用	不確定		・実現性 ・新たな合理化の予定が無いことから、必要量を確保する見込みがない。

評価軸ごとの評価を行う新規利水対策案は、次の5案とする。

対策案	対策の概要
ダム案：平取ダム	平取ダムにより、必要な開発量を確保する。
河道外貯留施設案：河道外貯留施設	平取ダム建設予定地付近に河道外貯留施設を建設し、河川の流水を導水し貯留することにより、必要な開発量を確保する。
ダム再開発案：二風谷ダム掘削	既設ダム(二風谷ダム)に堆積した土砂を掘削し、必要な開発量を確保する。
地下水取水案：地下水取水	井戸の新設により、必要な開発量を確保する。
ため池案：ため池	ため池を新設し、雨水あるいは地区内の流水を一時貯留することで必要な開発量を確保する。